

都市開発における住宅地域を中心とした居住空間継承と
考現学手法による生活実感調査手法の研究

代表 黒石 いずみ (青山学院大学 総合文化政策学部 教授)
委員 内田 直子 (大妻女子大学 家政学部 被服学科 准教授)

【研究報告要旨】

本研究は、渋谷の旧同潤会青山アパートメント周辺を対象に、地域のコミュニティ感覚や居住地としての生活感覚の調査を行い、現代の都市部における居住継続性と環境形成の仕組みや問題を生活者の視点から把握する事を試みた。その調査手法と視点は、人々と空間や社会との相互関係をリアルに描写した風俗調査である今和次郎の考現学を参考にした。さらにインタビューなどの手法や、地域の歴史的コンテキストや自然環境という対象を加えて多面的に調査した。また、戦後の住政策史を概観し、2000年代の公共住宅の政策変換で加速した都市居住の諸問題への研究の方向性を検証し、本研究の都市・住宅研究としての現在的意味を考察した。実際の調査では、「ご近所感覚」というキーワードを手掛かりにして、コミュニティ、テリトリー、場所性、ファッションの四つの視点からアプローチした。都市居住における住商の混在、公共的な開発と地域社会の連続性、少子高齢化と都市空間のスケールの関係、生活様式への消費活動の影響など、従来の用途地域区分では把握できない側面に注目した。調査の結果、空間の心理的意味や都市に居住する人々の多様性・流動性・地域密着性等の属性、「コミュニティ」概念の広がり理解された。また住民の地域空間に対する主体的関与のあり方の意味、異なった社会規範や利権が葛藤する場としての都市空間における臨界性とアフォーダンス、暮らしの中の知恵とネットワーク、楽しさの役割、緑や歴史の意味が、現代の都市を生き生きさせている事が理解できた。